



校長室から

夏休みの長さ

校長 石橋 功

夏休み直前号

時間は、1分が60秒、1時間が60分、1日は24時間、誰にも同じ長さが与えられています。これらは、人によって変わるものではありません。しかし、時間の長さを感じる感覚は、その過ごし方で変わります。今年度の夏休みは45日間あります。日数だけを考えると随分長い休みです。

休日は、計画性が、その充実度に関わります。日頃できないことがあって、「今度の長い連休あたりには…」と漠然と考えると、どうしてもそれができないで終わることが多くあります。逆に1日しかない休日ですと、なぜか比較的細かく計画して、予定していたことが行えてしまうことがあります。「時間はたくさんある」という意識がどこかにあって、それが気の緩みになるのか、あるいはそれが計画のずさんさにつながるのか、私自身もそうした経験がこれまでにたくさんありました。

人は、楽しいときや充実した行動をしていると、時間を短く感じます。逆に、辛いときや空虚な気持ちで過ごしていると時間を長く感じます。45日間という時間を短いと感じるか、長いと感じるかは、その使い方に大きく影響されます。充実感を持って終えられる短い夏休みにするのか、何やったんだろうこの休みって感じる長い夏休みにするのかは、生徒皆さんの過ごし方にかかっています。

3年生の生徒、保護者の皆さんへ

「中学生最後の夏休みをどんな休みにするのか？」大切な課題です。色々な意味で充実した休みにしてほしいのですが、当然その中には一番に「進路に向けて」を考えなければならないことは、多くの人が承知のことでしょう。

今年度は、3年生の生徒にとって生まれて初めて、自らの進路を決める年になります。今までも選択の岐路に立つことは何度かあった人もいたのではないかと思います。そこには必ず最後の「保険」が存在しました。しかし、今度の進路選択には、保険が存在しません。

この夏休みを、目標を立て密度の濃いものにするのか否かによって、成果の多い「短い休み」として過ごすのか、あまり成果なく「長い休み」として終わらせてしまうのかが決まるように思います。生徒と同じ期間休みを取ることができる保護者の方がほとんどいない現実を考えると、それは個々の生徒にゆだねられてしまうことになります。夏は「誘惑」という言葉が合う季節でもあります。また、大人（保護者や教師等）の目が遠くなりがちな期間です。

ご家庭でも、そのことについて意識していただけたらと思います。

1,2年生の生徒、保護者の皆さんへ

世の中にはたくさんの一般論があります。私は、日頃からそうした一般論に対して「本当だろうか？」と思うことが間々あります。思うというより、あえてそう考えるようにしているのかもしれませんが。

ここ数年気になっている「全部できなくていいから、これだけは人に負けないものを…」

もしかしたら「何でも頑張れ」って声をかけるのは、ちょっと負担が大きいから、かわいそうだからという親心だったり、教師心からくるものなのではないでしょうか。気になってから数年、でも世間でよく言われるようになって、随分経つように思います。

果たしてそれでよいのか？中学生って13歳から15歳。人の人生が80年以上と言われる現代では、まだ5分の1にも満たない年数しか生きていない彼らに、この言葉？

人は弱いですから、努力しないでよいと大義をもらったら、頑張れなくなります。ましてや子どもだったら尚のこと。「自分は、あれはダメだけど、これは得意だから」って。

保護者の皆さんの中には（きっと教員も）、「夏休みを有意義に、そして長い休みだからこそ、こうした機会のできないことを…」なんて思う方が多くいらっしゃるのではないのでしょうか。先に述べた「全部できなくていいから、これだけは人に負けないものを…」では、「長い夏休みだからこそ…」は、大丈夫でしょうか？

ここは思いっきり「全部頑張れなさい」って胸を張って励ましてあげるのもいいのではないかと思います。そしてそれは、生徒たちの「自分と自分の可能性を大切にすること」にもつながるのだと思うのです。

—— 気持ちよく再会するために ——

夏休みの間は、先生方がいつもそばにいてくれるわけではありません。おまけに夏は、様々な誘惑の多い季節です。9月1日に、みんなが笑顔で再会できるでしょうか。気持ちよく再会して2学期をスタートするためには、どうしたらよいのでしょうか。

1 油断や過信、判断ミス

「このくらいは大丈夫だろう」とか「自分はけっこうできるから…」という油断や過信は要注意です。水の事故で亡くなった人が、実は泳ぎが得意だったということがよくあります。「泳ぎは得意だったから」という過信が水に入る前の判断を鈍らせたのでしょう。「このくらいは大丈夫だろう」という判断ほど怖いものはありません。これは、泳ぎや事故だけの話ではありません。自分をダメにしてしまう危険な誘惑に対する判断力にも言えることです。

2 危(あや)うきに近寄らず

中国の古い言葉に「君子危うきに近寄らず」というものがあります。賢い人は、危ないことに近寄らないという意味です。いけないことや危ないことには、怪しい魔力があつて、人に「ちょっとやってみようかな」という気持ちにさせる力があります。「少しくらいならいいだろう」と考える人もいるでしょう。しかし、それがどんな不幸につながるのか、発展するのか誰にもわかりません。「危ないことやいけないことは、自分が考えている以上に危ない」ことであることを知るべきです。さらに、危険といわれるものは、一度入り込むと深みにはまって、なかなか抜けられなくなるものです。「非行」が、その一番の例です。

3 人の迷惑にならないことと思ひやり

先に述べた「油断や過信、判断ミス」、「危うきに近寄らず」に関係して、実は「人に迷惑をかけないようにしよう」という心がけが最も大切な基本となります。この心がけが、判断を正確にします。「こんなことをして〇〇が心配しないだろうか」「これをして△△に迷惑をかけないだろうか」と考えてほしいのです。行動する前に「人への迷惑を考える」判断力を自分の中に持つこと。そして、その判断が正確であること。判断する時、人の言葉に素直に耳を傾け、自分勝手な判断をしないこと。そうしたことが自分の身を知らぬ間に守っているのです。「思いやり」や「優しさ」は、自分自身や周囲の人への配慮ができてこそ育っていくのです。

45日間、生徒の皆さんには色々なことを学習したり、考えたりしてほしいです。そうして、心も体も健康で一層たくましくなって、「思いやり」や「優しさ」が実行できる皆さんに再会したいものです。

保護者の皆様には、この夏休みは、子どもが自分で考え、判断し、行動する機会と考え、温かい目で、時には厳しく見守ってください。また、少しでも不安や疑問を感じましたら、学校や担任等までご連絡ください。

旭町中学校 電話047(342)3651

8時10分～16時40分(土日祝および8月7日～17日は休業日) *スクリーンでも構いません。

ご家庭に眠っている
未使用品の提供を
お願いいたします

※未使用で、汚れや破損のないものをお願いいたします。



皆さまのご協力が必要としている方の笑顔につながります。
ご協力をよろしくお願いいたします。

保護者・地域の皆様へ

10月24日(土)今年度も保護者の会(学年代表会)主催で旭町中バザーを行います。この売り上げは、旭町中学校生徒の活動や環境補助に使われます。ご協力よろしくお願いいたします。

★学校回収★ 令和8年9月1日(火)～10月2日(金)9時～16時

※今年度は学校でのみの回収となります。地域公園での回収はありません。

日用品・文具・衣類・雑貨・シーツ・タオル等
全て未使用品
賞味期限内の食品(未開封・箱入り品も可)
*食器・せものは回収しません